

このたびは、ミツバ「ロイヤルアルファ」をお買上げいただきまして、ありがとうございます。この取付・取扱説明書は、製品の正しい使い方や取付け方、使用上の注意について記載しております。取付・取扱説明書を最後まで必ずお読みいただき、正しく製品を取付けお使ください。また、取付・取扱説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように大切に保管してください。

1. 安全上の注意事項

ここには、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。本書では取扱いを誤った場合の危険度を2つのレベルに分類しています。

	警告	取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。
	注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う危険性が想定されることを意味します。また、物的損害が発生する恐れがあることを意味します。

警告

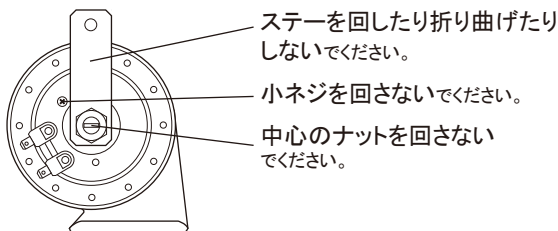
- 本製品は自動車用警告音器(12V車専用)です。これ以外の用途への使用は製品や周辺機器の故障、及び事故の原因になりますのでやめてください。
- 万一ロイヤルアルファが鳴らなくなってしまった場合には、直ちに純正ホーンに戻す等処置をしてください。ホーンが鳴らない状態で運転すると、事故の原因になります。
- ロイヤルアルファ配線例(図4のⅠ、Ⅲ)に該当し、ホーンリレーが装着されていないお車の場合、必ずミツバ製ホーンハーネスセット「SZ-1027」(別売)をご使用ください。ご使用にならない場合、車両のヒューズ飛びによる不吹鳴や電動パワーステアリング装置に悪影響を与える場合があります。その結果故障や事故につながる恐れがあります。

注意

- 純正ホーンや他のホーンと同時に鳴らさないでください。電流が過大となり、ヒューズ切れやホーンスイッチ破損の原因になります。
- 吹鳴テストの際はホーンから1m以内に人がいないことを確認してください。至近距離で吹鳴させると耳に傷害を起こす恐れがあります。

2. 取付・取扱い上の注意

- ホーンに塗装やコーティングを行わないでください。故障の原因となります。
- ホーンは長時間連続(30秒以上)して鳴らさないでください。ホーンの原因になります。
- 下図のようなホーンの改造は、不作動・破損の原因となりますので絶対に行わないでください。



- カーリングのボルト固定には、+ドライバー以外のものを使用しないでください。ボックスレンチ等では、ボルトやケースのネジ山を破損する恐れがあります。
- ホーンの渦巻き内に水が入らないように、開口部を下向きに取付けてください。渦巻き内に水が入ると正常に鳴らなくなったり故障の原因となります。
- 使用しない純正ホーンの端子がある場合は、テーピングを行い、他の部分と接触しショートしないように処理してください。
- コード類が他の装置に触れたり、絡まったり、車体に噛み込んだりすると、事故の原因となりますので確実に処理してください。

3. 主要仕様

定格電圧	DC12V
電流	4.5A×2
音圧	115dB
周波数	Hi:390Hz Lo:330Hz

4. 使用工具

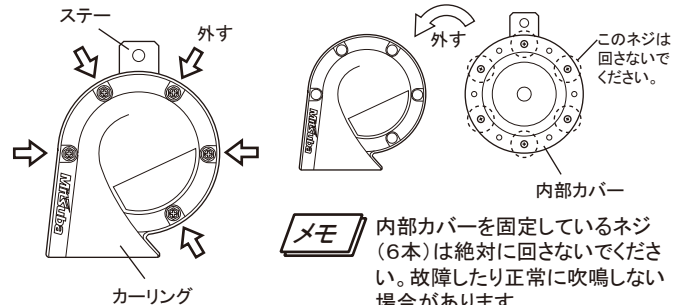


5. ボルトオンボディー(カーリング角度調整機能)

取付けの際、ホーン開口部を下向きに取付け出来ない場合は、下記要領にて開口部の位置変更が行えます。

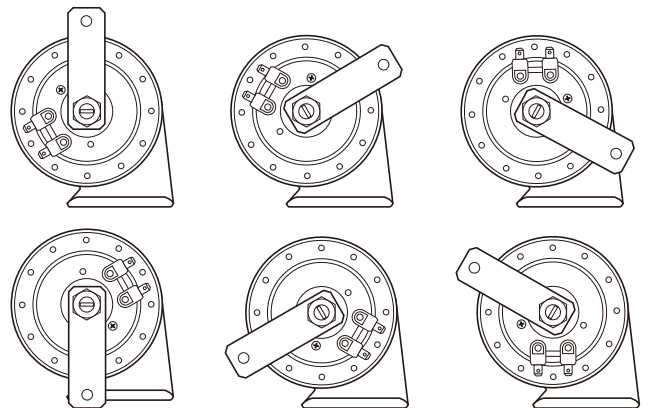
カーリング角度を変更する際は、片側ずつ行ってください。ホーン本体とカーリングの組合せが、Hi-Lo逆になると、正常な音が出なくなります。

- ① 矢印の部分のボルト(5本)を+ドライバーで外してください。
- ② 下図の様にカーリングを外してください。



- ③ カーリングの角度変更

ロイヤルアルファは、下図の様にステアとカーリング間の角度を60°刻みで変えることが出来ます。最も適した姿勢(ホーン開口部下向き厳守)を選び、カーリングをセットしてください。ホーン取付け姿勢は下図の6通りから選べます。



- ④ +ドライバーを使用してカーリングをボルトで確実に固定してください。

ボルトの固定には、+ドライバー以外のものを使用しないでください。ボックスレンチ等では、ボルトやケースのネジ山を破損する恐れがあります。
(推奨締付けトルク: 2.5~3.5N・m、25~35kg・cm)

6. 取付方法

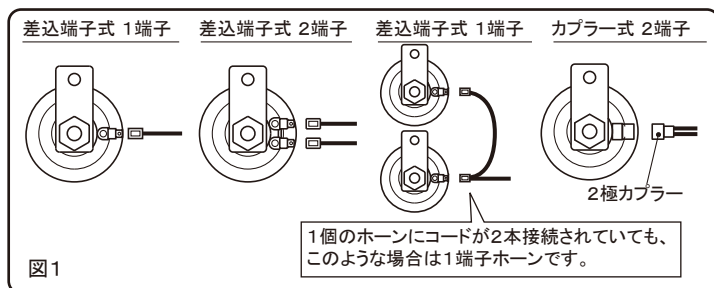


注意

安全のため、作業前にバッテリーのマイナス端子を外しておいてください。外さずに作業するとショートする恐れがあります。なお、外す前に車の取扱説明書またはディーラー等で外し方を確認してください。車両搭載装置に影響のある場合があります。

(1) 純正ホーンの確認

- ① 純正ホーンの場合と個数、及びホーンから出ている端子数(1端子か2端子か)を確認してください。(図1参照)



- ② 純正ホーンに接続されているコードをホーンから外してください。

(2) ロイヤルアルファードの取付



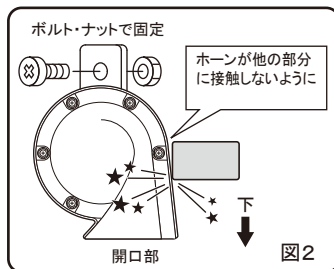
注意

- ホーンは剛性の高い鉄板部に取付けてください。剛性の低い部分に取付けると正常に鳴らなかったり、ホーンが脱落し、事故の原因となります。
- ホーンは、周囲の部品やボディー等に接触しないように取付けてください。接触していると正常に鳴らなかったり、ホーンが破損して脱落し、事故の原因となります。

- ① ロイヤルアルファードの取付け場所は剛性の高い鉄板部分を探し決定してください。

- ② 車の取付けスペース上、渦巻きの開口部が下向きに取付け出来ない場合は、「5.ボルトオンボディー(カーリング角度調整機能)」に従い、事前にカーリング角度変更を行ってください。

- ③ ホーンの開口部を下向きにし、ボルト・ナットで確実に固定してください。(図2参照)



ホーンの開口部を下向きに取付けてください。渦巻き内に水が入ると正常に鳴らなくなったり故障の原因となります。

(3) ロイヤルアルファードの配線



注意

コード類は端子抜け、噛み込み、破損をしないように確実に接続・配線処理してください。これらを怠るとショート、火災の原因になります。

- ① 図4の配線例に従い、車に合った配線を行ってください。

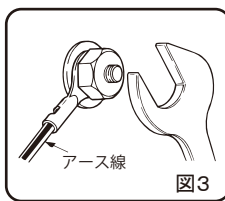


新設するコードおよびコネクタ等は、必要に応じて当社製のホーンハーネスセット(SZ-1027)、小型ホーン専用ラクラクセット(SZ-1131)、ホーン専用アースコード(SZ-1132)をご利用ください。

図4の(Ⅱ)(Ⅳ)の場合、ボディーアースを確実に行わないと、作動致しませんのでご注意ください。

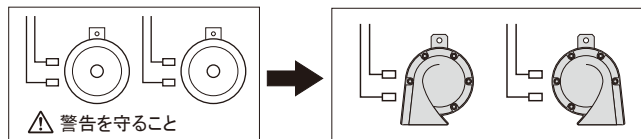
ボディーアースとは配線コードを車体の金属部に接続することによりマイナスを取ることです。金属部の汚れや塗装等の絶縁物を取り除いて確実に接続してください。(図3参照)

ロイヤルアルファードの端子には、⊕⊖の極性はなりません。

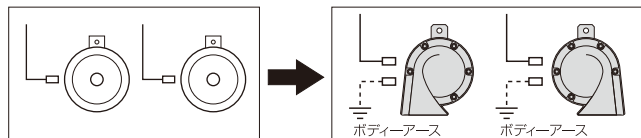


ロイヤルアルファードの配線例

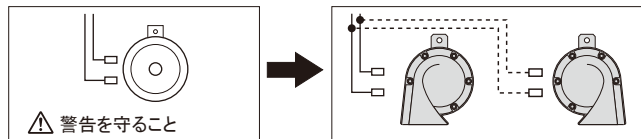
- (Ⅰ) 純正ホーンが2つで、各々に端子が2つの場合。



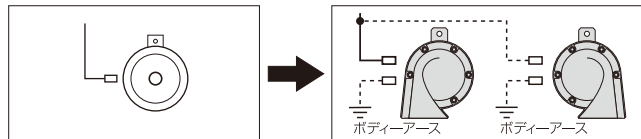
- (Ⅱ) 純正ホーンが2つで、各々に端子が1つの場合。



- (Ⅲ) 純正ホーンが1つで、端子が2つの場合。



- (Ⅳ) 純正ホーンが1つで、端子が1つの場合。



※ ●部分はコネクタ等で分岐してください。

※ 純正ホーンの端子がロイヤルアルファードの端子と合わない場合は、コードを新設する必要があります。

図4



使用しない純正ホーンの端子がある場合は、テーピングを行い、他の部分と接触しショートしないように処理してください。

(4) 吹鳴テスト



注意

吹鳴テストの際はホーンから1m以内には人がいないことを確認してください。至近距離で吹鳴させると耳に傷害を起す恐れがあります。

- ① 取付け作業前に外したバッテリーのマイナス端子を元通りに接続してください。
- ② ステアリングのホーンスイッチを押して、ホーンが正常に鳴ることを確認してください。

(5) 仕上げ



注意

コード類が他の装置に触れたり、絡まったり、車体に噛み込んだりすると、事故の原因となりますので確実に処理してください。

- ① 各配線が他の装置等に触れないように整理し固定してください。

(6) 故障かな?と思ったら

- ① 下表の確認を行ってください。確認を行っても正常に吹鳴しない場合は、本書表面に記載のユーザーサービス係までご連絡ください。

症状	確認項目
ホーンが鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> 各端子の接続状態を確認してください。 ボディーアースの接続状態を確認してください。 分岐線の接続状態を確認してください。